



三將軍解他名序

いとお軍解乃書いさ坂強正日如之節。
并は核樂表十節。あ人よ某技助せられてが
子細あつて越筋上杖強修云へまもり。枝あ人
乃名のみへ立御るべき行とあく。日及とさるる
うらふ。強修云佐筋河申進よたわて甲加修
云ととい合戦あつて殿軍さうさうの刻字
たるゆ沙成故よ付。親父さう盤さうさ軒案人
せられさるる。それいふあつて後とさるる。枝
とさる。道筋のらふ越はへ神氣のりる。

有りて彼の^い志^しは^い海^{うみ}に^いわ^らば^いく^るに^いづ^つ雅^{みやび}なる^い樂^{がく}と^いん^なか
 きて^い月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^るて^い室^{むろ}中^{ちゆう}を^いん
 聖^{せい}海^{かい}上^{じやう}方^{かた}諸^{しよ}の^いこ^らぬ^あら^じく^も自^じ由^ゆ志^しを^いか^らり^らぐ^こ
 と^いく^る弟^{あに}氏^しよ^も仁^に義^ぎ礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 と^いか^らり^らぐ^こて^い名^なを^いん^なと^い稱^{しょう}よ^もた^がり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^い
 に^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る智^ちと^いつ^つ也^{なり}と^いて^いあ^らじ^きひ^もく^る
 仁^に義^ぎ礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 と^いく^る弟^{あに}氏^しよ^も仁^に義^ぎ礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 の^い美^{みやび}女^{によ}百^{ひやく}八^{はち}十^{じゆう}人^{にん}と^いぬ^へて^い二^に備^びと^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 り^き徳^{とく}を^いか^らり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る

その^いひ^びが^いこ^らに^いあ^らじ^きひ^もく^る場^ば中^{ちゆう}に^いあ^らじ^きひ^もく^るは^いま^はら^うひ^まら^うと^いき^さの
 あ^らじ^きひ^もく^る也^{なり}と^いあ^らじ^きひ^もく^ると^いた^がり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^い
 之^この^いあ^らじ^きひ^もく^る徳^{とく}を^いか^らり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る
 兵^{へい}の^い戦^{せん}場^ばよ^もお^く生^な死^し乃^{すなは}得^{とく}失^{しつ}と^いあ^らじ^きひ^もく^ると^いき^さの^いな
 ね^いを^いか^らり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る又^{また}事^{こと}
 わ^らり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る天^{てん}地^ちの^いあ^らじ^きひ^もく^る
 一^いよ^も仁^に義^ぎ礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 と^いく^る弟^{あに}氏^しよ^も仁^に義^ぎ礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}
 くに^いあ^らじ^きひ^もく^ると^いあ^らじ^きひ^もく^るた^がり^らば^いれ^ども^いし^らし^め月^{つき}も^い日^ひも^いに^いら^ぶと^いあ^らじ^きひ^もく^る
 ハ^い礼^れ者^{しや}弟^{あに}と^いあ^らじ^きひ^もく^る先^ま徳^{とく}卒^{そつ}命^{めい}

佐わりの諸人夫ねよまきくも其長くうらに死ぢん事
 とあて思ひとらつてひびくに結ぶようく大将とらと
 同べりし堪とひらくは夫ねとをに死とをさ時死
 し。まぶさよの同べりも生と下一をいしてあやうふ
 難とわをわと。武王の臣と子。一さこの後して武
 王と同さつとら。討が長下。敷可。討よらとら。あれ堪
 とらあつ。是とらとら。ありの。天とら。六陰陽を暑時
 制とら。そ星雲風日月のさひの天とら。ありの。雲霧
 は冬夏とら。ふまをハ少と極をば夏は南と極をば教味
 方るさつとら。ひよの海をふらうはとら。先日本とら。てと

雲中におの國よむろくたうの教みくこ白ゆあ
 ざら乃とらひ也。西の辰日と子。孤雲旺相の事。地は
 を陰易。廣狹。死地。生地。のさとら。は。そあへとら。火
 急よあへん。ゆらやうに流る也。とら。い。は。とら。や。あ。る。べ
 地乃難。而。あ。を。も。ら。ゆ。ら。は。う。地乃易。ハ。騎。と。用。ゆ
 ば。よ。う。地。の。廣。さ。大。人。數。と。ら。つ。く。ゆ。と。さ。ま
 う。さ。ゆ。よ。う。う。將。ハ。智。仁。勇。義。あり。方。人。の。い。ま
 通。を。一。事。此。徹。と。わ。ら。う。ら。り。海。が。か。し。わ。ら。ん
 獲。と。入。ら。ま。す。の。後。よ。熱。と。わ。ら。う。し。と。持。と。て。さ
 い。ひ。さ。る。は。お。の。智。あり。武。功。乃。は。あ。ひ。よ。い。び。と。さ

どうしあがり。そんなあさひや。がらくもしい。地なわつる。
 征へ天下のまことかまひ。教の侍大おとこの法。
 つれが能ある。能ある。勝能ある。軍。それ。侍大将。
 物。法。物。多。の。法。役。志。あ。ら。く。も。武。功。忠。臣。の。志。
 お。は。い。策。勲。数。乃。つ。ま。り。ま。で。つ。ま。り。ま。で。の。家。國。
 に。お。け。ま。い。だ。國。政。り。く。して。百。姓。の。一。國。で。お。大。
 おのそあへ。者。也。法。ま。る。侍。勲。の。り。ん。大。扶。主。將。
 乃。勇。お。わ。く。ど。や。天。地。の。教。國。こ。つ。つ。ま。り。ま。で。天。
 天。の。時。地。の。地。乃。利。り。ん。合。て。天。地。乃。利。り。ん。あ。ん。
 いから。う。め。あ。り。や。も。る。福。星。の。も。る。や。又。天。と。お。り。

といひ。し。清。の。法。又。星。天。よ。わ。つ。れ。義。出。あ。つ。て。天。
 下。乃。ま。り。ま。で。あ。ら。く。も。頂。相。美。仁。あ。く。も。能。光。人。
 て。天。中。ま。り。あ。り。日。中。よ。お。つ。て。帝。星。と。り。ま。り。あ。り。
 地。は。堅。固。あ。ら。く。地。形。と。地。と。築。と。り。ま。り。あ。り。の。地。
 乃。教。も。あ。ら。く。も。あ。ら。く。も。の。地。乃。教。も。あ。ら。く。も。
 出。ろ。う。り。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。
 も。國。を。乃。智。恵。よ。う。い。て。也。古。年。の。法。の。法。の。法。
 方。よ。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。
 乃。智。恵。也。古。年。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。の。法。

うほくもこれ教也。旗もくもくもくもく。この教、
とまり。ひびく。いた。いの。ち。き。や。ま。け。て。い。は。ま。り。ぞ。く
と。ま。り。も。ま。ま。の。再。降。と。も。て。能。ま。り。び。び。の。依
一。味。と。も。い。れ。神。ま。り。と。も。い。や。あ。べ。一。教。と。味。方。に。貴
一。守。と。い。れ。あ。り。と。も。い。あ。り。貴。は。徳。率。乃。我。也。地。に。と。り。と。
一。成。知。と。も。い。れ。金。部。と。も。い。た。り。い。し。上。申。下。ま。り。の
一。三。版。と。も。い。れ。也。守。の。殊。對。也。そ。又。三。版。と。申。下。後。存
一。よ。て。依。依。ひ。つ。と。あ。く。あ。り。と。一。貴。對。あ。り。と。り。あ。り。
一。教。は。あ。り。て。と。勝。と。か。この。國。は。あ。り。い。は。ま。り。い。は。ま。り。
一。教。わ。り。と。り。と。り。と。り。味。方。あ。り。と。り。と。り。法。令。と。り。と。り。法。

な。あり。號。令。の。金。教。と。ま。り。と。一。金。と。も。い。れ。に。て。の
一。命。と。も。い。れ。い。は。ま。り。と。も。い。ま。り。と。も。い。た。り。と。り。と。り。と。り。
一。務。わ。り。と。り。と。り。と。り。執。務。揚。子。と。も。い。れ。一。務。首。は。り。
一。と。も。い。れ。い。は。ま。り。と。も。い。て。法。令。と。も。い。り。と。り。と。り。と。り。
一。乃。あり。信。と。も。い。れ。徳。信。と。も。い。れ。長。と。も。い。れ。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。
一。と。も。い。れ。と。も。い。れ。徳。書。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。
一。あ。り。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。
一。か。り。と。も。い。れ。

才一。右。の。あり。し。の。留。置。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。
國。政。軍。法。め。り。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。と。も。い。れ。

いありしと肉と疎離してこととありしはべしと四帝
にうろく家を侍大おものもめ乃収まを肉疎ま
一海と車と善てありしをたつるしをかきつたもつ教
園乃強番とさつて地形乃きまを山川海と渡ささ
たまり道難平平易教乃城のうごととにそりあ
かともらゆらゆら誘ま小荷結乃は米糧とこと
もに自由なりゆりよくうらひてまみらのがどた地
生地乃つらましくとうありしおとる大軍小軍の
そあへの意とさるおたつてなは務員とらんが
と中一也と海とら車教のち限我が代たがひり

引合て旅和の西勢までかんとてとを代乃かど
くにつらと誘ま乃うごとと計はあり教乃大将は
合たしを大軍七まそのまをつたつこの場ま
もつてこれなまづまらうところおが福計とよまら
も下れ侍大将おぐらまらうごととつらうや
あふうとふまとごとから此事教七教ありを城
別七まらうとらるべしとて品若敵弱敵強敵討敵
は敵小教大教也彼教とてとて八品かもえ強敵彼
敵はこれと一敵あり若敵と大勢小勢にいふか
ど園教ともらあうつらふらととておとら親交能

ぶよりの成行しを。めぐりむらけける。團部も。うご
 しくねる。免。の。教。あり。や。い。も。う。う。も。老。若。に。う。ん
 弱。敵。と。い。大。小。の。い。ん。東。弱。め。て。あ。ぐ。ひ。あ。大。は。
 大。目。長。階。と。秋。則。政。の。勢。也。強。敵。と。い。傍。海。一。面。を
 支。地。づ。り。の。て。は。お。も。と。な。り。て。右。の。て。で。け。て。采。初
 め。の。ま。ま。ら。づ。お。も。て。い。ま。か。て。た。り。の。ま。ま。い。お。も。て。い。ま
 也。の。ま。ま。ま。う。け。て。は。は。う。た。が。あ。か。た。で。弱。が。あ。り。對。敵
 と。は。文。武。二。なる。その。の。い。ま。事。を。け。か。た。と。あ。ら。し。め。し。め
 ころ。大。將。と。剛。敵。と。い。ふ。あり。そ。も。も。の。鉄。乃。て。い。ま
 ごと。い。に。て。お。も。い。の。う。り。の。お。あ。り。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。

ひ。の。い。な。ら。う。が。あ。り。強。敵。と。い。ふ。柳。の。風。う。か
 び。の。お。も。も。枝。乃。と。れ。づ。ら。が。あ。り。そ。も。も。の。大
 お。も。い。に。て。い。ま。と。あり。一。度。及。び。い。ま。と。あり。お。も
 の。う。さ。い。び。も。う。さ。ん。の。お。も。も。格。を。い。は。ば。い。ま。と。あり。そ。も。も
 一。に。い。ま。教。あり。小。教。と。い。ふ。強。め。て。小。と。あり。對。敵
 て。小。と。あり。強。め。て。小。と。あり。大。小。大。志。あり。ち。あり。小
 け。て。弱。あ。り。に。向。ら。し。め。ら。る。ま。ま。と。あり。い。ま。の。侍。大。お。七。敵
 つ。も。れ。の。い。ま。文。武。教。あり。の。い。ま。の。侍。大。お。七。敵
 ら。築。の。格。よ。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま
 七。敵。と。あり。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま。の。い。ま

子とてある役者もわとやうたんとつてと空
けり種修なる家とて位を二と乃初めの位を
乃家中とていふく入とまのびとらと家つぎと
いあり間入とて教乃とまどとてうばつたの
こつらうと申下と後あり。後押のる大さこのびと
家と申とがとけと後ありまづ教乃とまどるる
大と二所よあたらたよ。目なるとて押のる一
町よと海とつら海とつ目なる一とあつらるの
う物あるいけりものつらあつた目と付て又それ

よと後と修とふとつらとくそと熱人教合とある所
通してとまどりのまどとつらとあり。又二行つ三行と
ととけと免とて一町は六十あるは室の一とあるは二
丈一間よ一人三人よつらとて。又一町はあるあんと人
いふつらとけとつら。是より二間よ馬一丈二間よ一人三人
乃つらと又二間よ一人一丈三あるあんと一人とつらとのと
く三後よ大つらと申つらとけとつらとつらとつらとつらと
いふと人教とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと
つらと人教とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと
くのつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと

四十四

三にたがひてうへはよく之のまのまの所もあはれん
 分れ役ありおるるなと家乃志のびとつとと
 志といひたりまうりといひて忍を乃役とあはれせま
 どもにありは目付乃役と同見見かよはせま
 さまあわはばあうりこれよくまねくは役まのりあ
 ぞひの義軍乃法あり信を公今川義元とら治
 も河乃あはみや目付ありとやうきんをとつとと
 之國のひまのまあをまとの敵國の人乃あを紙
 突おはつとあり尾列大山乃城主大い後と追
 らし治を信を公目付とつとの江橋利あり後

公微乃乃清務利とてひくわつとあはれ
 ともありとらつとつとの務利の海の也

第四三大将計策他法乃事

一 計策といふは町人百姓内海等といつと
 留事也。おらあは。禪宗。まの言ま家まかへて
 通をいして方智本覚のありがりのあり。信を公大
 坂門松長鴻乃一向宗よの志をさとのあはれ
 つく計策といひ。治を公。向のふらあをさうのあり
 禪宗の不立文字。表外別傳乃表を字ゆへに理も通
 どもにありは義をうへに死すべとあはれとあはれ

十人よ一人の如く。學文のゆゑあり。若しはく。學文に
 祖祖して。終日まじりて。あるに。亦も。教の國へつらり
 ても。教を。書と。する事あり。その。教國より。味方の國
 へ。入る。て。先。お。家の。せ。いた。う。あり。が。う。た。い。學。同。修
 ひ。よ。つ。めて。方。國へ。通。ら。ば。一。て。叶。え。ざる。他。は。あ。れ。が
 う。あ。ら。じ。極。る。決。る。る。程。あり。あ。ら。じ。も。つ。く。お。家。と。ま。て
 計。策。と。町。人。を。商。賣。と。する。もの。あ。れ。た。は。他。國。は。未
 だ。く。て。か。ら。あ。ら。ざる。事。は。所。人。と。も。自。國。乃。ち。もの。あ。れ
 の。書。子。と。人。災。あり。て。重。罪。と。れ。や。つ。ら。し。か。つ。く。志
 の。教。國へ。入。る。百姓。も。教。國へ。親。教。誨。を。受。け。に。た。り

本入と。又。自國よ。か。ん。あ。ん。あ。ら。ざる。母。國。地。よ。つ。ま。い
 地。既。よ。そ。せ。う。あ。ま。ば。他。國へ。つ。ら。あ。ら。の。あり。そ。よ
 之。金。子。米。錢。而。勢。未。よ。付。て。ら。と。つ。け。あ。ら。じ。と。ら。ん
 教。國へ。入。る。あり。人。あ。ら。じ。つ。ら。よ。ら。ば。志。の。か。ら。し。様
 ひ。と。教。下。め。し。ら。ら。と。ら。り。天。八。ら。ま。ぞ。う。み。あ。ら。じ。あ。ら。じ
 海。か。た。せ。あ。ら。ば。わ。く。入。海。也。内。海。と。は。然。王。西。子。と。い
 養。女。と。も。つ。く。異。を。よ。ふ。と。先。あ。ら。じ。ひ。の。女子。の。未。嫁。と
 て。さ。ら。天。の。婿。と。して。つ。ら。ひ。を。習。乃。女性。と。い。は。せ。ら。り
 亦。と。し。少。婦。若。は。様。さ。う。か。と。つ。ら。ら。ん。ゆ。今。は。位。名。と。ら。わ
 甲。初。越。は。へ。は。志。を。毎。日。つ。ら。り。亦。く。の。志。物。と。ら。り

信玄公の正室と謀のまけぬ乃海をとんと勝
頼朝への正室の正室とゆつを信玄は内林山佐
朝へ正室公乃伯母と内方よりつり或はひつと動
田義興よみ女ととつてつりつとひ善物持さ
おのを身と相別小栗氏政氏と秀者せめつふ
に小栗家乃信大将若月十郎といふもの浮回
秀家といふ秀者乃乃所ひ大おさけつらふと
つりて善治通よりつてだがひは日ごととつらふ
うらにあつひの針策と入て小田原乃謀とつら
あれ針策ともつらふとつらふとつらふとつらふ

中づいひつと針策といふ信玄は伏しも教
所乃志ろを免てこの國わりのつらふ針策
ある事あげてかぞへつらふおのあつとつら
してこの大将乃つらふとつらふとつらふとつら
とつらふあり針策といふとつらふとつらふとつら
とつらふのつらふとつらふとつらふとつらふとつら
後志名人乃國へあつとつらふとつらふとつらふ
つらふとつらふとつらふとつらふとつらふとつら
つらふとつらふとつらふとつらふとつらふとつら

弟文治の信玄正室の事二ヶ條

の旗あり。さよ十騎よほせねた。越りてまてふ
 て。四百廿人かどあり。さよ三行よ徳と一
 行のち八町二行のさよ。拾町とねともの
 て。横もほしとる。一。後勘とねた。だやとさよ
 よりそくに。男と
 二。右一備又十騎よわよ。い。ま志をひりう。あ
 る。一。合戦あり。一。討大将一人とて。い。あ
 さゆ。件のさよ
 三。徳とさよ。え。ま。い。ち。あ。い。もの。あ。ま。は。は。い。い
 ぞ。め。ざ。ね。た。合。戦。あ。り。が。う。一。敵。ふ。よ。い。て。あ。ら。る

そのあり。まらみと。わねら。か。あ。ゆ。へ。あ。あ。う。と
 足。の。ご。く。ほ。く。か。ら。あ。つ。と。神。あ。一。陳。ぞ。り。を。八
 陳。よ。本。形。あ。一。と。あ。ま。ば。ち。ん。り。の。さ。う。り。う
 かねとあ。と。さ。い。

三大将用給ふ徳の大辨志
 一 鶴翼と徳 圖よりとく

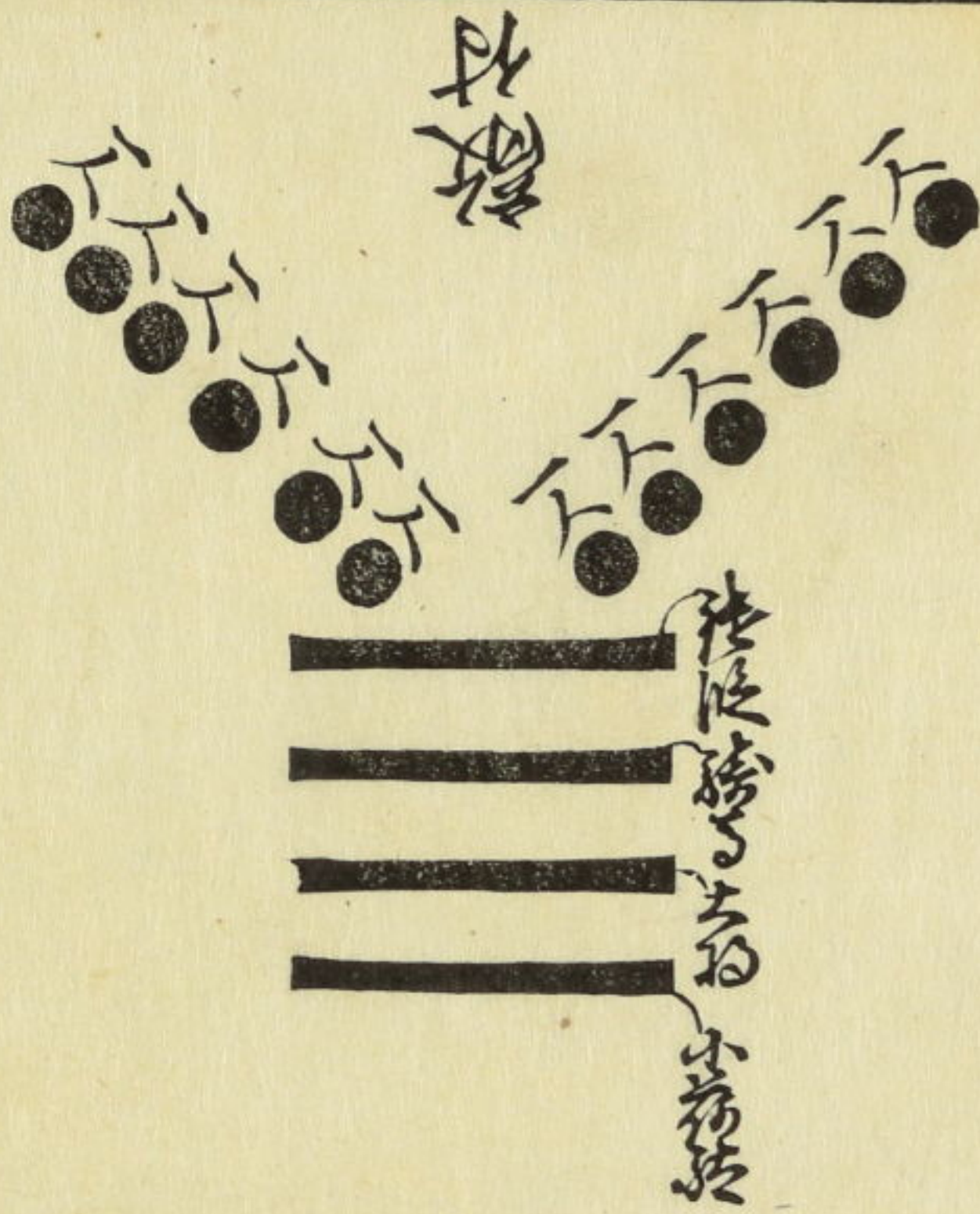


ひろきあ。と。め。け。い。ま。を。ひ
 ら。さ。て。い。ち。う。ゆ。ま。と。さ。い。い
 ぶ。あ。り。と。ね。と。徳。ま。あ。う。て

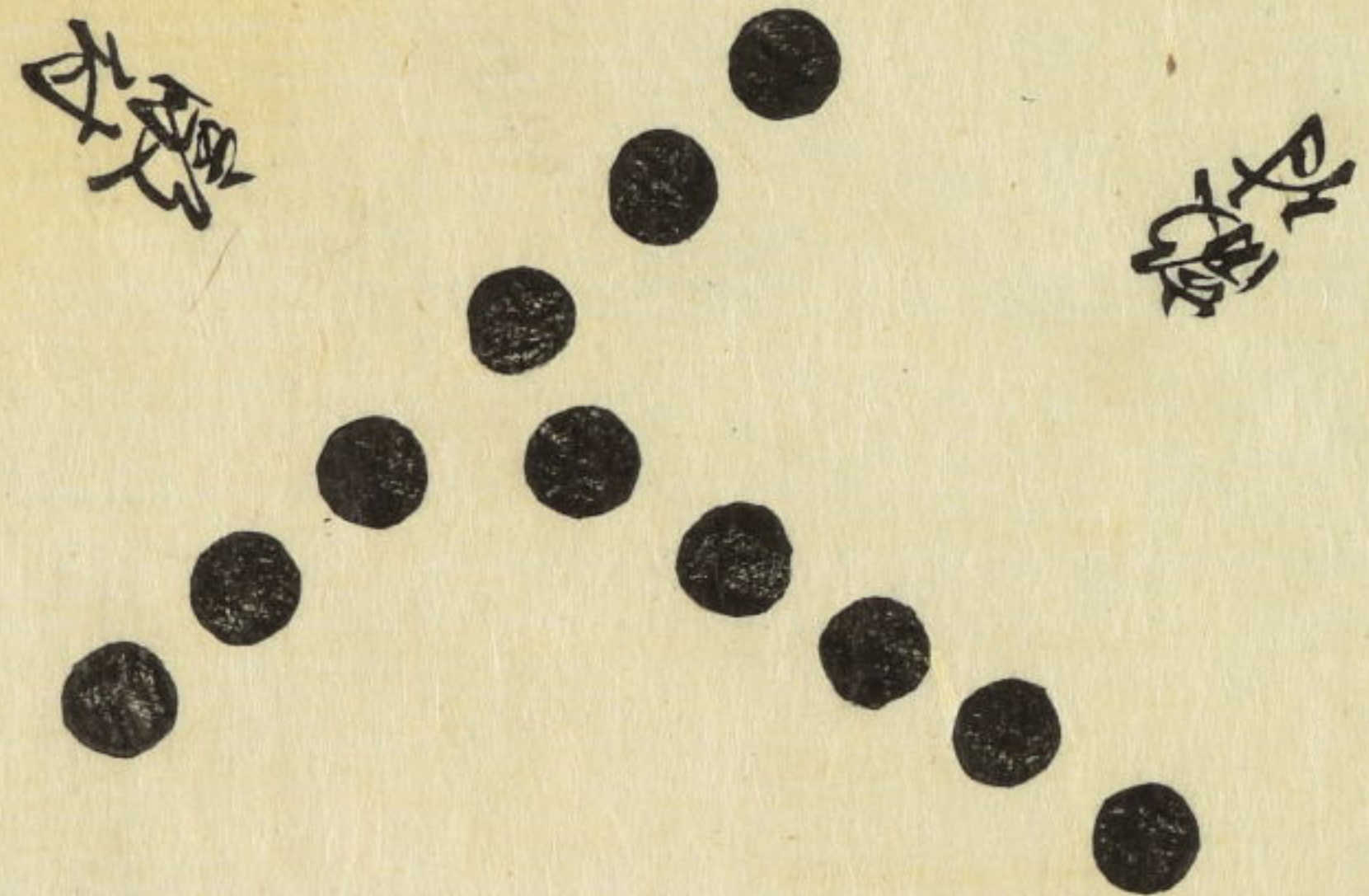
足腰

足腰

待味方のそあへとありて川中流合戦のとき
信玄くろくへぐつとあへとありてくろくへぐつとありて
ゆゑに勝利あり。是程乃立務つてよか。なる。よくん
とつけて刀をばと徳あり



是程のたりありたあへとありて
向ふわうらうらとてきとありてきとありて
地ぢりあくおそくひ村をらへはは信玄
軍としてくろくへぐつとありてくろくへぐつとありて
とて云つたことありてありてありてありて
刀のてと六羽と徳信にあらはは
さるつてありてありてありてありてありて
くは件のありてありてありてありてありて

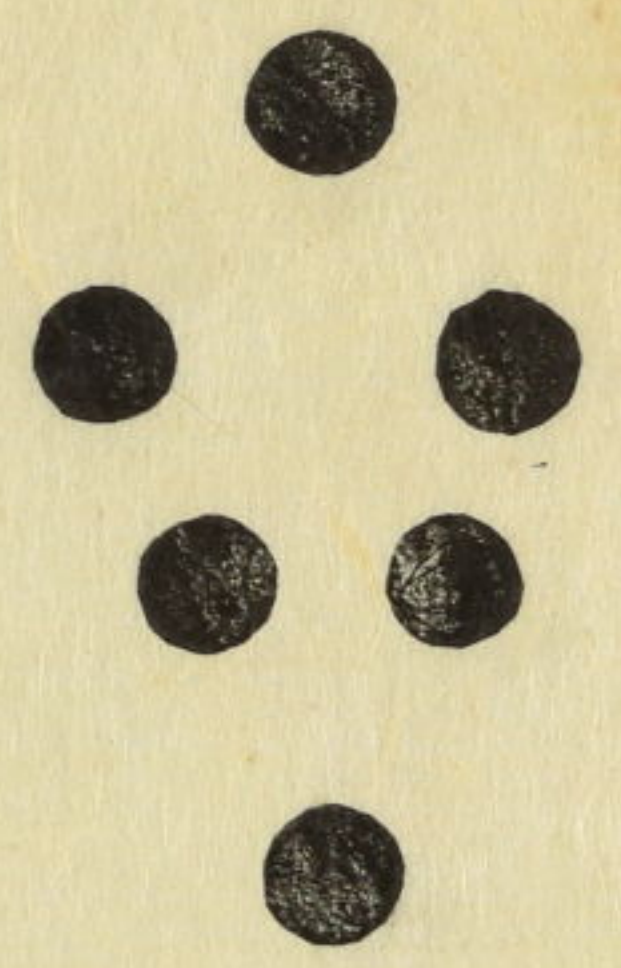


是人形のそあへとありて川中流合戦のとき
信玄くろくへぐつとあへとありてくろくへぐつとありて
ゆゑに勝利あり。是程乃立務つてよか。なる。よくん
とつけて刀をばと徳あり

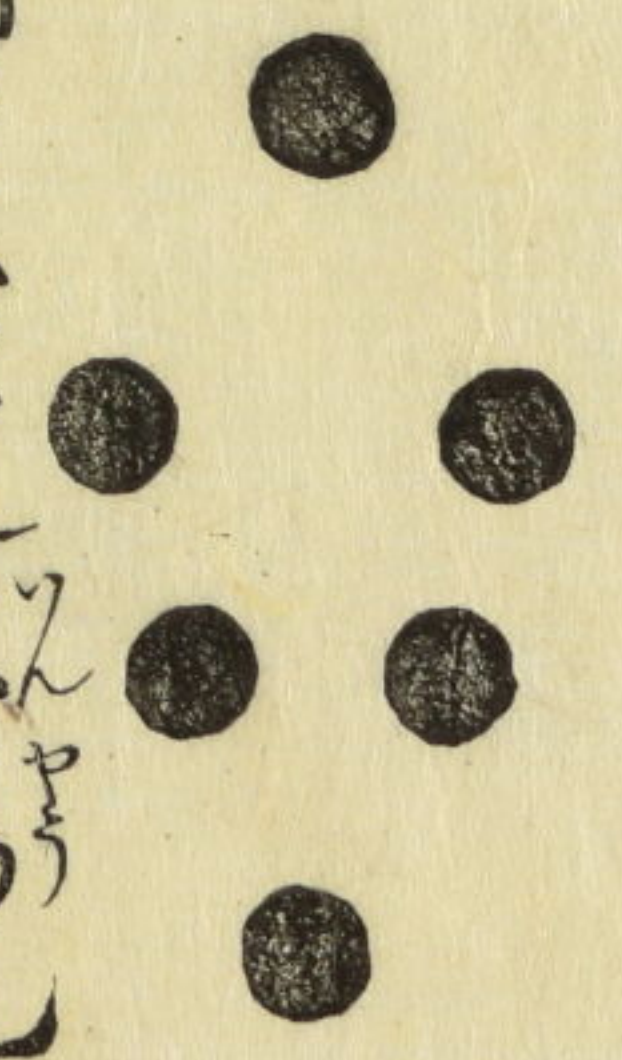
川中流合戦

と

貞鏡のそまへな志まことおまるといひつくそまへに
 地形ぢけいそのつきのつくゆてき長田位ながた家
 の流あり位長ゆきなが位長かんかん位長かんかんの流あり

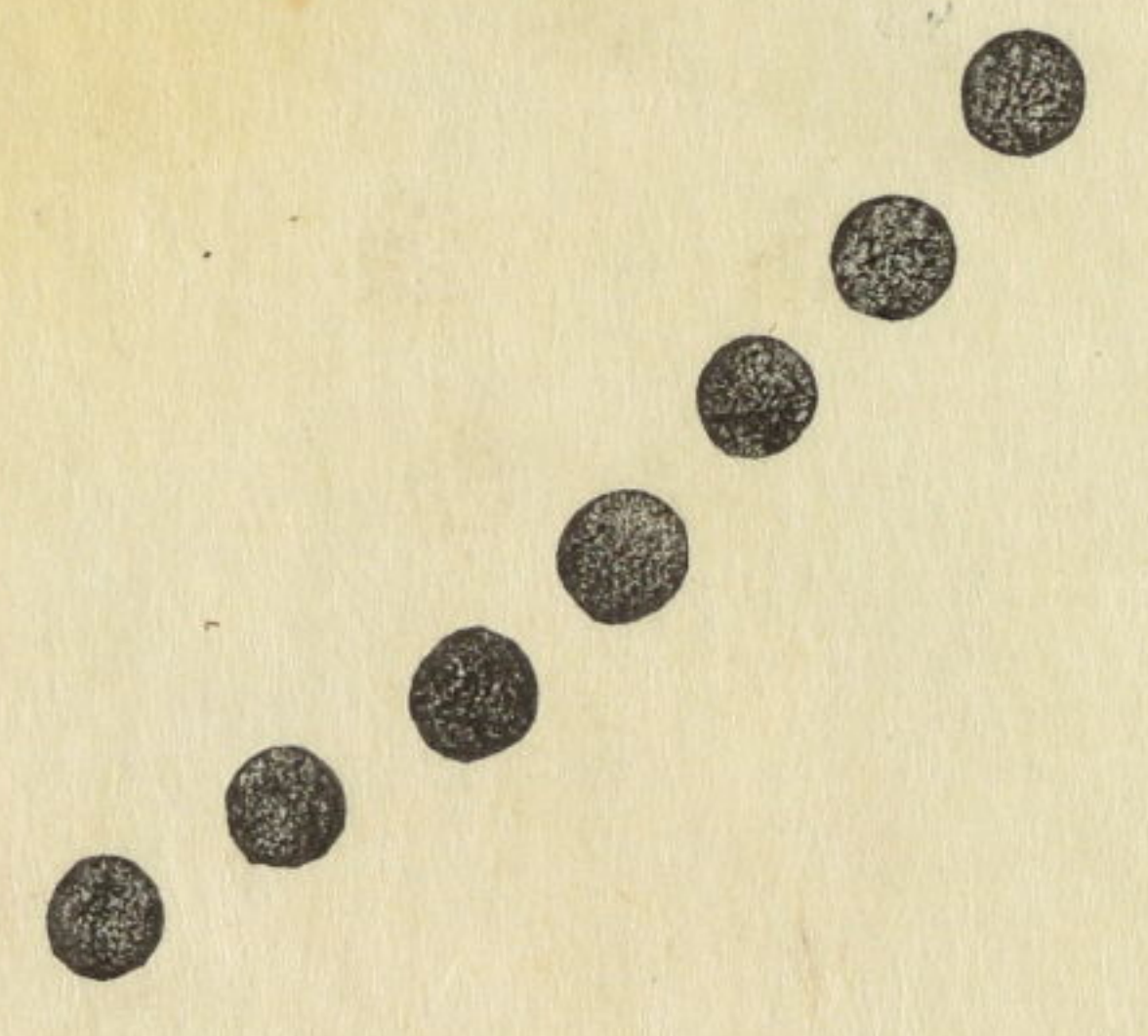


北のよきつる付の天也陰陽也



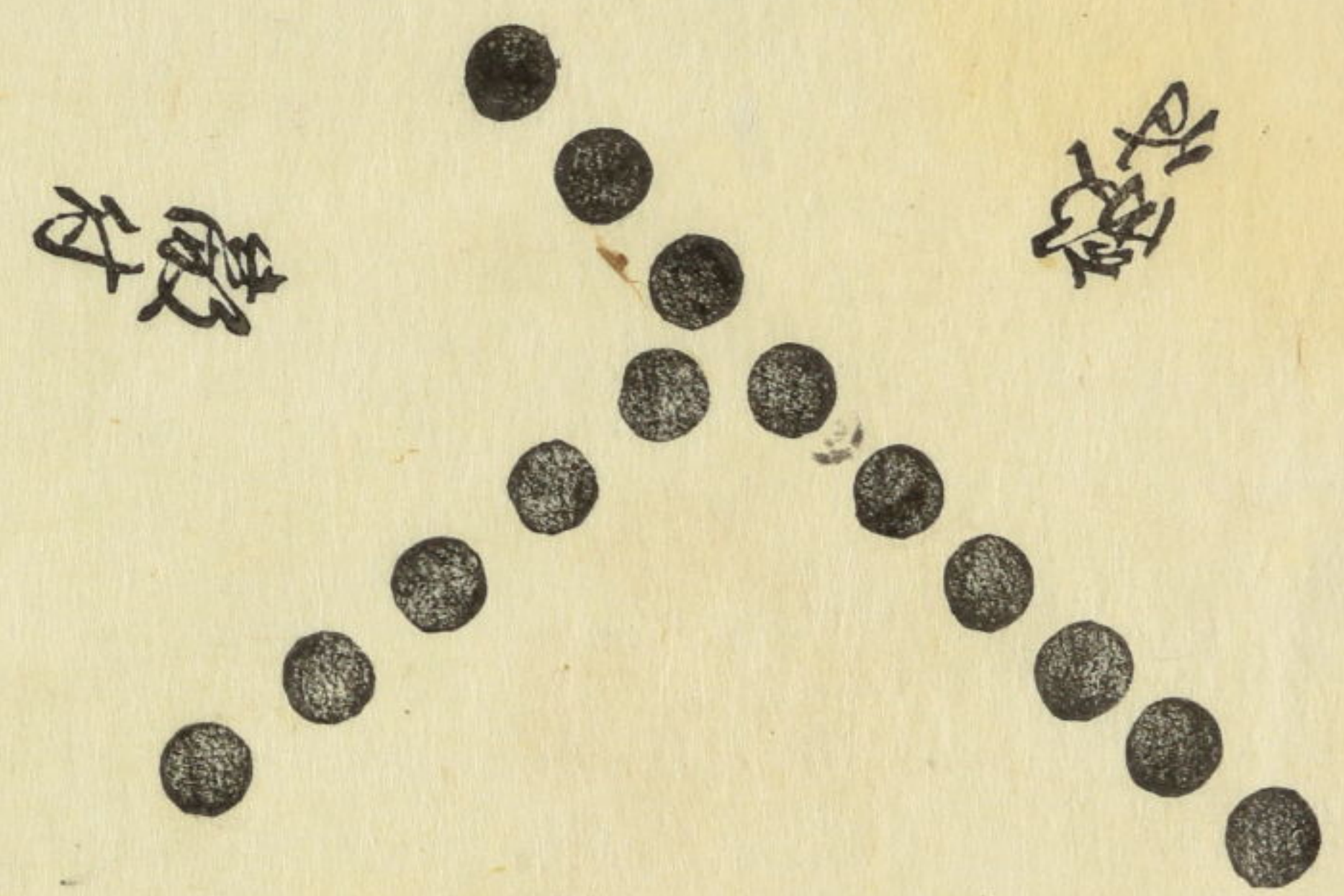
けそあへあぐれあぐれゆるる云ぐん行かうる云

三の家をたにそむと用ひらる
 穀つらあひつら宿入るそむにけいけいの
 こら者又引らるるもぐり
 引めて者也宿のけいを
 あぐらるるこらあり。水みづ
 ながれ乃形なまがたのどし



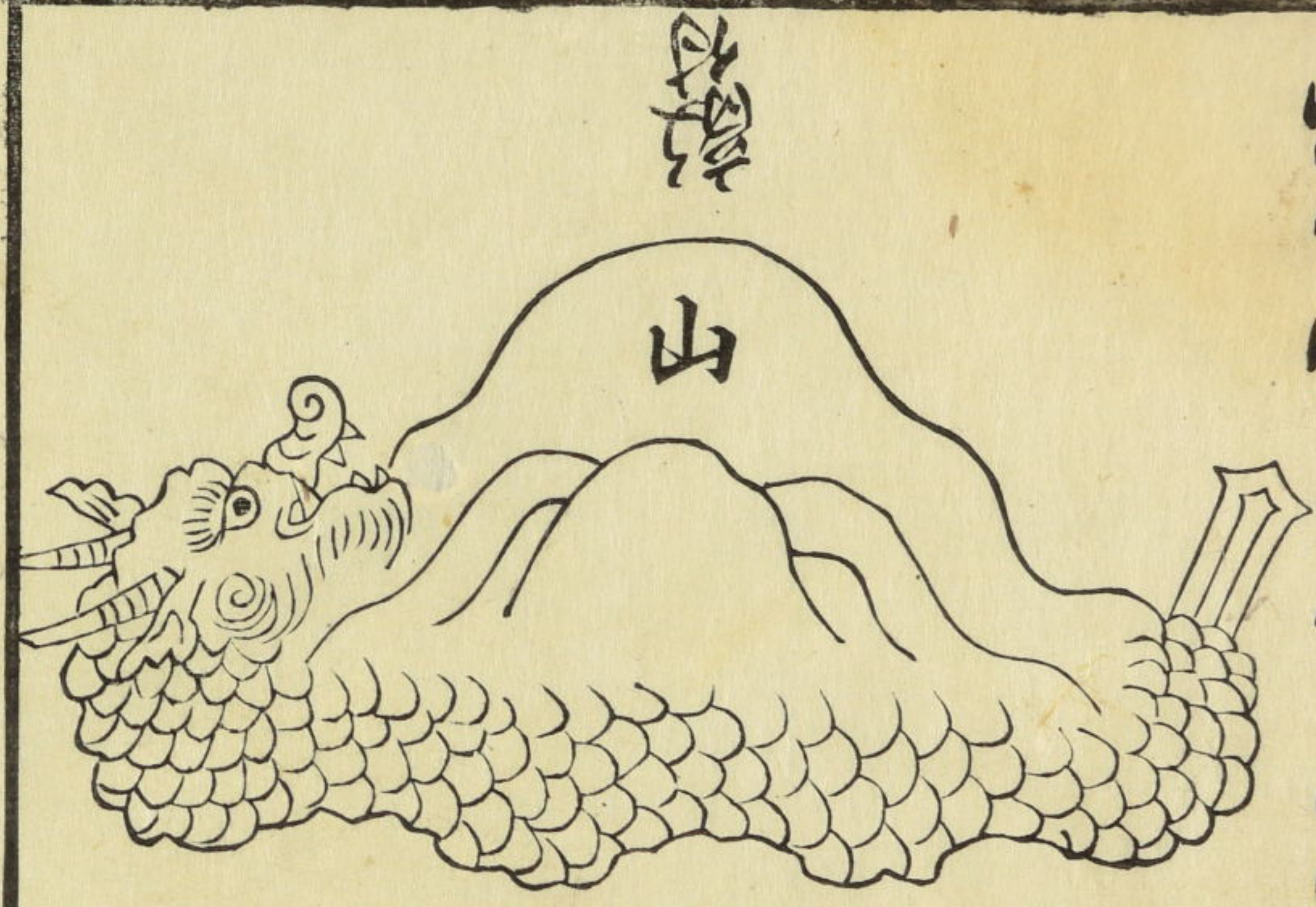


四つうのこちれそあへと蛇おと
 体こゝろらあから尾おしりつらあよ
 目め敷しきよりくるぐさうし白おしろの
 そまへありけそあへらり
 色いろの下したをそあへらり大おほ神かみま
 だうのあへらり



けそあへ入いり形かたちらあ入いりの字じ
 乃のこちらよこほりけそあへ
 色いろあへらりあへらり
 明あきるぶきま事こととさへらり
 して用もちふあへらり体こゝろあり
 らぬぐさあり

蛇乃事常山の蛇カと尾カ蛇カとま



蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま
蛇尾カと尾カ蛇カとま

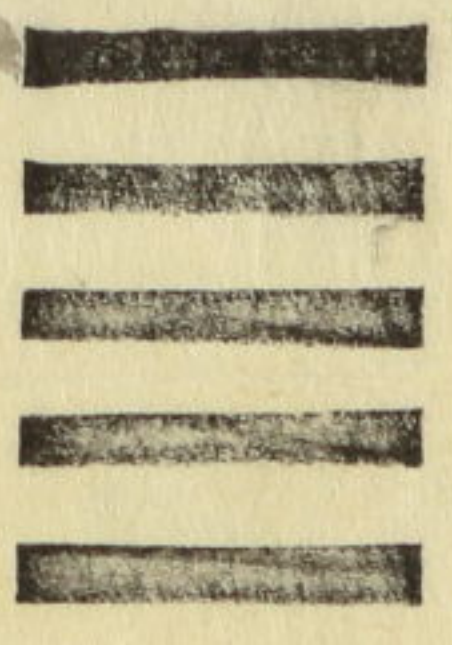
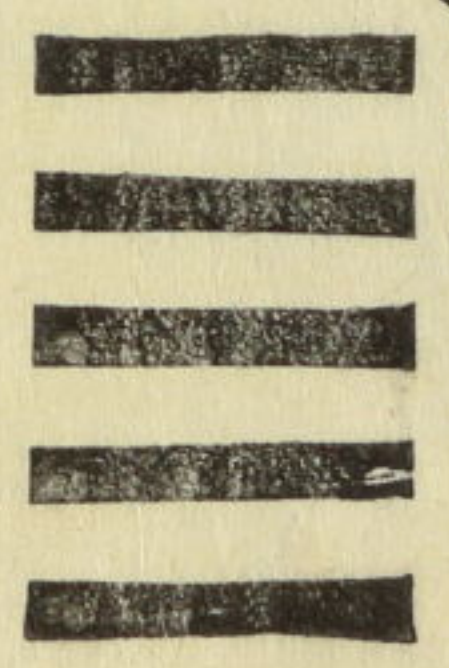
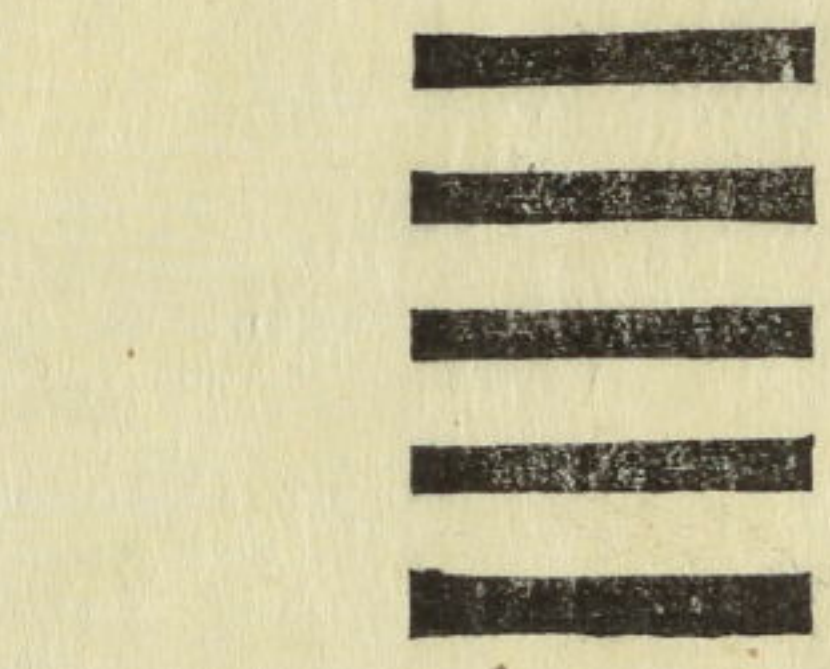
一 ●
三 ●
四 ●
五 ●
六 ●
七 ●
八 ●
九 ●

九 ●
八 ●
七 ●
六 ●
五 ●
四 ●
三 ●
二 ●
一 ●

右の道徳と云はたどつて城をせめ敵と對峙乃時隙を
を射討きごとく何大なるわざせしむるよしありん
入敷とまうしつて海らり網を合おぼしむるを
ふそまらざるがははあぞいありけり

書判 九ノ一 二ノ二 三ノ三 四ノ四 五ノ五 六ノ六 七ノ七 八ノ八 九ノ九
 陽數の九は陽の極也。九と九は陽の極なり。一と一は陰の極なり。一は陰の極なり。
 一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。
 一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。一は陰の極なり。

天 天陽
 地 地陰
 人 人の極なり



先天地人の体は天の陽地陰也。天地二体乃
 河の陽乃体にして人とくうなり。天地人の三才
 あり。天の陽あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。
 地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。地は陰あり。

なるものごとく今人教と対あり。ごころは悔けぬ敵軍の
 ことなし。忠なるは徳も目とくけて敵軍乃こそことあり
 にはまりつらたむに。結ぶの大法乃徳あり。味方徳
 養ふありたむとてあつくい。忠なり乃徳とくさの
 あてていふことごとく事也。ごころごとくにて乃城郭の
 ごとく。わがへくも小荷結徳とくもわりのこれの
 忠事らもぞ。わが乃又く徳もとくさああり。この
 口付人まづむあねむ。わがよりのこのか
 ね。びつからわして。成功乃ちあつ。ひつまつ。や
 く也。よくひさゆり。敵軍なごころとれた敵り。小

荷結とくまぬやうふことごとくやうあり。小荷結
 とくまをて。信軍創ぶりのかまはば。才一乃
 びつこと役あり。ごころ乃時。結とくも。何とも
 うふ。よく。小荷結とくま。敵ふつら。か事しも
 こ時乃ちあ。むせよ。つこ。も。也。又い。よく。を。あ
 乃こと。ま。限。よ。する。大。地。よ。して。木。火。土。金。水
 の。あ。ひ。乃。こと。ら。中。り。仁。義。礼。智。信。乃。又。常。事。た。ん
 び。て。わ。り。乾。元。亨。利。貞。吉。夏。秋。冬。去。用。心
 肝。腎。肺。脾。乃。必。ぎ。う。れ。ご。ころ。必。法。甚。毒。經。
 南。無。阿。弥。陀。地。火。風。空。萬。事。可。物。の。利。も

軍解卷之六
一書二書
三書
四書
五書
六書
七書
八書
九書
十書
十一書
十二書
十三書
十四書
十五書
十六書
十七書
十八書
十九書
二十書
二十一書
二十二書
二十三書
二十四書
二十五書
二十六書
二十七書
二十八書
二十九書
三十書
三十一書
三十二書
三十三書
三十四書
三十五書
三十六書
三十七書
三十八書
三十九書
四十書
四十一書
四十二書
四十三書
四十四書
四十五書
四十六書
四十七書
四十八書
四十九書
五十書
五十一書
五十二書
五十三書
五十四書
五十五書
五十六書
五十七書
五十八書
五十九書
六十書
六十一書
六十二書
六十三書
六十四書
六十五書
六十六書
六十七書
六十八書
六十九書
七十書
七十一書
七十二書
七十三書
七十四書
七十五書
七十六書
七十七書
七十八書
七十九書
八十書
八十一書
八十二書
八十三書
八十四書
八十五書
八十六書
八十七書
八十八書
八十九書
九十書
九十一書
九十二書
九十三書
九十四書
九十五書
九十六書
九十七書
九十八書
九十九書
一百書

一書二書
三書
四書
五書
六書
七書
八書
九書
十書
十一書
十二書
十三書
十四書
十五書
十六書
十七書
十八書
十九書
二十書
二十一書
二十二書
二十三書
二十四書
二十五書
二十六書
二十七書
二十八書
二十九書
三十書
三十一書
三十二書
三十三書
三十四書
三十五書
三十六書
三十七書
三十八書
三十九書
四十書
四十一書
四十二書
四十三書
四十四書
四十五書
四十六書
四十七書
四十八書
四十九書
五十書
五十一書
五十二書
五十三書
五十四書
五十五書
五十六書
五十七書
五十八書
五十九書
六十書
六十一書
六十二書
六十三書
六十四書
六十五書
六十六書
六十七書
六十八書
六十九書
七十書
七十一書
七十二書
七十三書
七十四書
七十五書
七十六書
七十七書
七十八書
七十九書
八十書
八十一書
八十二書
八十三書
八十四書
八十五書
八十六書
八十七書
八十八書
八十九書
九十書
九十一書
九十二書
九十三書
九十四書
九十五書
九十六書
九十七書
九十八書
九十九書
一百書

中さゆうの繩じょう雲うみあつはせん伝でん玄げん家けありちや。さらや樂らの
 格く名な登と一い利りあるはだい。大だいおお回かい一いささるるににううりりて
 三さん將しやうと書かつつごごりり。ううくくととままししててかかるるぶぶささありり

大りだいがが 又また十じゆ騎き又また一い候こうハ
右 陸軍りくぐんのの大だい將しやう

小せう將しやう騎きありあり

此こゝ

武ぶ志しありあり
 二に人にん又また十じゆ騎き
 のの時とき二に人にん
 騎きありあり

騎きるる 日にち 日にち 日にち 日にち 騎きるる

侍しやう大だい將しやう

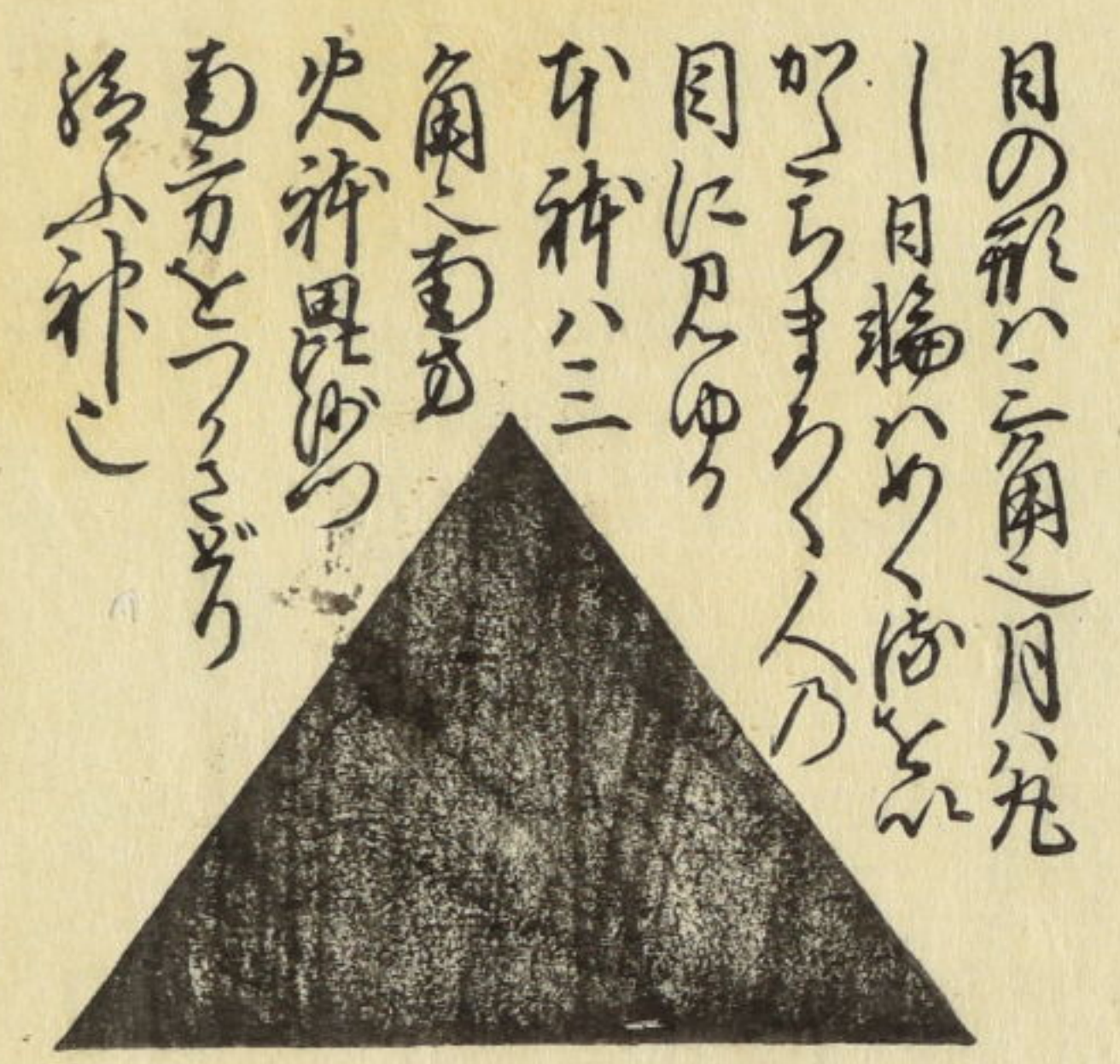
馬うま 日にち 日にち 日にち 日にち 馬うま 馬うま
 小せう將しやう騎き 二に人にん

大だいりりがが 是こゝ種しゆ大だい將しやう

大だい 陸軍りくぐんのの大だい將しやう

小せう將しやう騎きありあり

此こゝののややううとと本ほん大だい將しやう旗はたけ中ちゆうににくくももけけらら也也
 之これれれいい侍しやう大だい將しやう又また十じゆ騎きあありりのの方かた又また陸軍りくぐんのの大だい將しやう
 づつ連れん乃のそそのの大だい將しやうををけけいい六む人にん乃の侍しやうりりありあり。是こゝ種しゆ
 大だい將しやう小せう將しやう騎きありありのの方かたありあり



ありありくく此こゝのの大だい將しやう。陸軍りくぐんのの
 三さんににけけ三さん角かくありあり事ことなりなりててここ
 付つのの方かたとと志しせんせんががたた也也也也
 又また南なん方かたのの火ひののせせのの方かたにに
 角かく也也陽やうありありれれるる方かたにに
 ことこと小せう將しやう一いのの三さん角かく也也門もん

の甲形ありびきやよとてさもつ神なる
三太おとくに佐作ましくさるるく敵討つ
方よめいあるはのめいさるべのあひな
ろめらあつたはさしよとてさるるの
末世は子の人の味はよめいさるるの
一 件のこゝ

者となをさるるこゝのまづ物軍おつて
そあのかいさるるさるるさるる
おのこゝのさるるさるるさるる
け極子にさるるさるるさるる

たうらうらとてさるるさるるさるる
とさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる
にありさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる
よなこのさるるさるるさるる
のさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる

一 油押の付る上六十騎計の横及上申下三位
四百二十拾がどあり。この及と位大よのがらと。はしこ
るらうとことあへと。上申下わり。あよつとりのい書志
ふと。み中騎乃そまひらと。あさ此はとりの。あま
にわりのぞらうのものとあてこねとあるがまあり
信玄家のはとりの也
衣袂よりどつとりのつらひやう。騎利のそま油押
のつらひとまら乃おる口付終

三將軍解一之巻終

